

## 「自信と愛の子育て」

1. 子供の優先順位と大人の優先順位（遊び・学校・友達・サッカー、優先順位を理解して共有していますか？）
2. 成長する子供と、成長する大人（子供の成長を日々感じて、大人も成長していますか？）
3. サッカーとは失敗することが許される唯一のスポーツであることを知っていますか？（寛容ですか？）
4. 自己肯定度の低下（「しなさい」「してはいけない」「なんでできへんのや」指示、命令を一日何回言ってますか？）
5. ライフワークバランスが子供を育てる。（大人の背中をみて育ちます。ビール片手にテレビに釘付け、子供にライフワークバランスを教えてください。家での子供の役割が大切です。）
6. 子供にとって、大人にとって、クラブにとって「かけがえのない存在」でありつづけたい。（愛があることを忘れない。）

暁は「集中力、向上心、友達を大切に作る心」を育てます。

子供、保護者、指導者は「かけがえのない存在」です。

暁は「暁を愛する」仲間であり続けてきました。

「めぐりあえてほんとうによかった」ひとりでも、こころからそういつてくれるひとがあれば良いと思います。

批判ばかりされた子どもは非難することをおぼえる。  
殴られて大きくなった子どもは力にたよることをおぼえる。  
笑いものにされた子どもはものを言わずにいることをおぼえる。  
皮肉にさらされた子どもは鈍い良心のもちぬしとなる。

しかし、

刺激をうけた子どもは自信をおぼえる。  
寛容にであった子どもは忍耐をおぼえる。  
賞賛をうけた子どもは評価することをおぼえる。  
フェアプレーを経験した子どもは公正をおぼえる。  
安心を経験した子どもは信頼をおぼえる。  
可愛がられ抱きしめられた子どもは世界中の愛情を感じることをおぼえる。

暁で保護者の方にいつもお願いしていることがあります。それは『お子さんのコーチになるのではなく、サポーターになってください』ということです。試合中や練習中、コーチの言っていることを聞いたことがありますか？大人が聞くと「ああ、なるほど」とサッカーをやったことがなくても理解できます。それをお子さんについつい言ってしまう事はありませんか？以前ある子が「試合が終わって家に帰るとお父さんに説教されるから嫌だ」と言っていたことがありました。親としては子どものために一生懸命なのに、その気持ちはなかなかうまく伝わりません。とうとう「試合見に来ないで」と言われたりします。これは親にとっても、子どもにとっても辛いことです。「今日は何点とった？」子供は毎週聞かれます。いつか「3点取った」本当は1点もとっていません。「嘘」をつくことを覚え、それが一生懸命の親にとっての回答をするようになりました。辛いことです。

サッカーのことはコーチにまかせましょう。お子さんの話の聞き役にまわり、楽しかったこと・うれしかったこと・時には悔しかったことなどに共感してあげてください。

7. こどもたちがサッカーに夢中になっている姿を見て、保護者として何かをしてあげたいと思うのは自然な気持ちです。練習の送り迎えや、お弁当作り、たくさんの洗濯物にちょっと閉日してしまうこともあるかもしれません。しかし、ピッチでボールを追いかけるわが子の姿を見ると、「しっかりがんばれ!」と応援せずにはいられません。

最初はボールを上手にけれず、仲間のうしろに付いて回っていた子どもが、どんどんたくましくなっていきます。ゲームに勝って喜び、負けて悔しがる。シュートが決まったと胸を張り、ミスしてしまったことに肩を落とす。そんなわが子がいとおしく何かをしてあげなければと思うことも保護者としては当然です。

社会の中に多くのマナーがあるように、サッカーを楽しむためにもマナーがあります。サッカーに必要なマナーをきちつと教えていくことは保護者として大切な役割です。そして、みなさん自身がマナーを守ることは言うまでもありません。ここではみなさんが主役です。

しかし、サッカーの主役は子どもです。子どもたち自身が考え、感じ、判断し、プレーしたことを認めてあげてください。それがうまくいかなくても、決して責めないでください。失敗したことは十分にわかつています。上手にできたことはほめてあげてください。

勝っても、負けても大きな拍手。良いプレーには味方、相手関係なしに拍手。そんな素敵な応援が子どものサッカーを盛り上げます。『子どものサポートであることを忘れずに』

一般的に、少年団やクラブの活動には、みなさんの協力が不可欠です。

みなさんの一生懸命な応援や献身的な協力のお気持ちはたいへんありがたく、子どもたちにも励ましになります。

練習の送り迎え、また、特に遠征や試合等では、年齢が低いほど、引率やお世話の必要が生じます。実際、そういった協力なくしては運営が成り立たないクラブもあります。

何から何まで、やれる限り何でも、ではなく、クラブの考え、指導方針と合うようにしましょう。クラブとよく相談して、求められていることを確認しましょう。

いちばん重要なのは「子どもたちの成長にいちばんいいこと」をすることです。みなさんのやりがいや満足、あるいは大人同士のつながりを保つためではないのです。

本当はクラブに積極的にかかわりたいと思っても、いろいろな事情でできないばかりに、いたたまれず子どもにクラブをやめさせてしまうのも、残念なことです。子どもが犠牲になるようなことがあっては本末転倒です。

あくまで子どもの活動のサポートであることを忘れずに、大人同士で考え、話し合い、カバーし合っていくことが大切です。

ただし、無関心は子どもにとって非常にさびしいことです。

忙しい、余裕がない、といった事情はあるかもしれませんが、気にかけて、関心をもち、機会をつかまえてそれを表現するには、いろいろな方法があると思います。できるやり方からやってみてはいかがでしょうか。気にかけてもらっていることは、子どもにとって喜び、励み、勇気になります。

### 『アメリカ キッズゾーン』

アメリカには、ユース関連の加盟団体が複数存在しますが、その中のひとつがAmerican Youth Soccer Organization (AYSO)です。AYSOでは、「キッズゾーン」と呼ばれるプログラムを展開しています。これは、近年、ユーススポーツに関わるプレーヤーやコーチ、親のネガティブな行動、暴力行動がメディアに採り上げられることが増えてきたことを受けて、この傾向に歯止めをかけるために開始されたプログラムです。

以下の注意書きに従うのであればウェルカム、従えないのであれば、お引取り願いたい、という内容になっています。

- ・キッズがNO.1
- ・勝つことでなく楽しみがすべて
- ・ファンは応援するのみ。コーチはコーチに任せる
- ・怒りにまかせてどならない
- ・ボランティアのレフェリーを尊重する
- ・ののしらない
- ・禁煙
- ・帰りにゴミを残さない
- ・子どもによい見本となる

大人のための誓約書や行動規範、また、指導やサポートのためのさまざまな情報が用意されています。

AYSOでは、U-6のゲームのガイドラインには、「順位を記録しないこと、結果を記録しないこと」と明記されています。また、各試合のはじめと終わりに、プレーヤーだけでなく、コーチ、親も握手をすること、とされています。JFAのガイドラインでも、この考え方を採用しています。

—JFAハンドブックより抜粋—

サッカーのことはコーチにまかせましょう。お子さんの話の聞き役にまわり、楽しかったこと・うれしかったこと・時には悔しかったことなどに共感してあげてください。

批判ばかりされた子どもは非難することをおぼえる。  
殴られて大きくなった子どもは力にたよることをおぼえる。  
笑いものにされた子どもはものを言わずにいることをおぼえる。  
皮肉にさらされた子どもは鈍い良心のもちぬしとなる。

しかし、

刺激を受けた子どもは自信をおぼえる。  
寛容にであった子どもは忍耐をおぼえる。  
賞賛を受けた子どもは評価することをおぼえる。  
フェアプレーを経験した子どもは公正をおぼえる。  
安心を経験した子どもは信頼をおぼえる。  
可愛がられ抱きしめられた子どもは世界中の愛情を感じることをおぼえる。

～「子は親の鏡」ドロシー・ロー・ノルトより～